

② 対象児について

- 実態調査をもとに孤立傾向にある児童や学校不適応意識の強い児童の中から、援助の手を差しのべていくことが必要であると思われる児童5名を選出する。

(K子はその中でも特に級友からの排斥が多かった児童である。)

- K子について調査から分かったことは次のとおりである。

- ・級友からの選択者 0人・排斥者 9人 (ソシオメトリックテスト)
- ・いじめや無視がある。
- ・自分でも、30人中14人を嫌い、自分を周囲は全く理解してくれていないと思っている。

(3) 指導援助の方針

① 学級全体に対して

- 実態から、対人関係の中で他者受容や自分の本音を表現できるグループ・エンカウンターを取り入れていき、信頼関係が図れるような温かい人間関係を体験していけるようにする。

② K子に対して

- グループ・エンカウンターでは、K子に必要とされる内容(友達から受容され

る気持ちや自分から友達を信用する気持ちを体験する)を意図的に取り入れる。

また、その際、自分から素直な気持ちで集団の中に入っていけないときは、担任が直接援助する。

- K子の様子を観察しながら、特に、本人の自己イメージが高まるようなことばかけや教育相談などの援助にも心がける。

(4)グループ・エンカウンターの実施内容と方法

① 年間指導計画に合わせた演習の構想 (表-1)

② グループ・エンカウンターの進め方

- 全体の演習の構成は、10種類の演習と、それと関連あるウォーミングアップとして簡単にできる演習を組み合わせたものをプログラムとして準備する。

- 授業の中では、導入でウォーミングアップの演習を行った後、展開で十分に中 (表-1)

	人間関係を深めるための演習	演習の中心的ねらい	実践した教科	{ ☆ 学級全体に対して } { ※ 抽出児に対して }
温かい集	「あいさつゲーム」 ⇒「後ろの目」	・転校生を迎えて新鮮な気持ちで友達を意識する。	学級活動 「室内ゲーム大会をしよう」	☆転校生がこの日入るので、挨拶から入り、仲間意識を深める。
信頼関係を	「後ろにたおれる」 ⇒「ブラインド・ウォーク」  「肩に手を置く」 ⇒「肩たたき」 ⇒「幸せを運ぶ手紙」	・信頼し合うことの喜びを体験できる。  ・友達が自分のよさに気づいていることを知る。	道徳 (信頼・友情)  学級活動 「友達の長所」	☆肌と肌の触れ合いや友達からの好意的な見方を知り、信頼関係を深める。 ※抽出児が、自分自身友達にどう見られているのかわ知らせ、自己存在感を与え、自信を持たせる。
現	「ハートピッタリはだあれ」 ⇒「お願いします」⇒「目と目の会話」⇒「手と手の会話」 ⇒「にらめっこしましょう」 ⇒「メッセージ交換」	・なかなか友達となじめないと思っている児童が、自分と気の合う友達と心の交流が持てる。	学級活動 「男女のよさ」 「学級の問題」	※自分に合う友達を見つけられない子どもたちに、友達をつくる機会を与え、自分を表現できるよう手助けをする。